

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (甲信越)	◎	観光名所（職員）	来客数の動き	・今月は連休があったこともあり、来客数、売上共に大幅増加と、近年まれな状況である。土産品は発注しても生産が追いつかず、納品もままならない状況である。
	◎	その他サービス 〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月は葬儀の依頼が非常に多い。葬儀での出合いが、遺品整理や墓じまい、友人の紹介へとつながっている。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・毎週末、周辺で季節の食イベントが開催され、それに伴い多くの人出があった。
	○	スーパー（経営者）	それ以外	・前年比で売上は6%増加、来客数は10%減少となっており、3か月ぶりに売上が前年を上回っている。前年9月は大型イベントがあったが、今年はなかったため9月は前年を下回っていた。10月は毎週末イベントがあり、忙しかった。11月1日から3日も大きなイベントがあり、3日間で売上60万円を予定している。11月も忙しいと嬉しい。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車受注が上向いている。特に、高単価の新型車が売れている。
	○	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症発生以降、動きのなかった同窓会や趣味の集まり、地域の自治会等の団体が、今秋から急に動き出している。また、コロナ禍の家族旅行は父母と子供という組合せだったが、ここに祖父母や叔父、叔母等も一緒に動くようになり、1つのグループサイズが約1.5倍から2倍になり、来客数が増加している。
	○	タクシー（経営者）	お客様の様子	・利用回数が増え、人の動きを実感している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・当店はスポーツ用品店だが、今は大型店が近郊に出店しているため、なかなか店売りがなく、学校のクラブ活動の注文を待つ外販が多くなっている。クラブ活動自体、昔と比べていろいろ制限があったり、子供がクラブに入ることが段々少なくなっているようで、商売に少々響いている。
	□	スーパー（経営者）	来客数の動き	・単価が上昇したため買上点数は減少するも来客数の増加で売上は微増となっている。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・セール実施日等にまとめ買いをする傾向は変わらない。買上点数は前年実績を割り込む状況のため、し好品などには手が出ない。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・周りにドラッグストアができて、それも24時間営業だったり、コンビニ業界にとっては非常に厳しい状態で、夜の時間帯になかなか来客数が伸びない状況である。
	□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月は最低気温、最高気温が共にかなり高く推移していたので、さすがに夏のように大きく伸びはしないものの、多少は売上を期待していたが、期待したほど上がっていない。
	□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・年間を通して、来客数の減少が続いている。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車両販売に関してはなかなか契約に結びつかず、低迷している。給料も上がらず、物価だけ上昇し、ここに来て円安に警戒感を持つ客がおり、車検、一般整備で、帳尻合わせをしている状況である。
□	自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・冬のタイヤ交換シーズンが近づき、広告宣伝効果もあるため、来客数は増えてきているものの、客単価は上がらず、安価な物を好む傾向が強い。	

	□	その他専門店 〔酒〕(店長)	お客様の様子	・全般的に値上げが続いている。インバウンドを対象とした高級なホテルやレストランは値上げで価格転嫁でき、非常に好調な様子である。ただし、一般客を対象としたところではなかなか値上げが難しく、客足もやや鈍い様子である。個人客は割と堅調だが、全般的には余り変わらない。ただし、今月は売上が良いという肌感覚はある。
	□	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・ぬるま湯につかっているような、中途半端なはっきりしない景気動向である。
	□	通信会社(社員)	販売量の動き	・携帯電話事業の新料金プランがリリースされたため、端末販売を含め、新規顧客の開拓を狙っていきたい。
	□	遊園地(職員)	来客数の動き	・花火とドローンのショーやコラボイベント等を行ったが、大型イベントが少なかったため、変わらない。
	□	ゴルフ場(副支配人)	来客数の動き	・時期的に来場者は増えているものの、平日の来場者の金額に対する動きはシビアで、例年の価格設定では集客が難しい。
	▲	一般小売店〔家電〕 (経営者)	お客様の様子	・客の来店もなければトラブル等の依頼もなく、静かな状況が続いている。これといって消費意欲を誘うような商材も仕掛けも見当たらず、厳しい状況である。
	▲	百貨店(経理担当)	来客数の動き	・来店人数に比例して、売上は芳しくない。
	▲	コンビニ(経営者)	お客様の様子	・実質的な手取りが増えている実感がない。
	▲	コンビニ(経営者)	競争相手の様子	・近隣競合店のリニューアルオープンの影響を受け、やや悪くなっている。
	▲	コンビニ(経営者)	来客数の動き	・物価上昇や賃金上昇で経費がかさむのに対応して、売上が伸びないと景気は上向かない。物価が上がっているため、見た目は前年実績を超えているが、ふたを開ければ、ということである。
	▲	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。コンビニに来店する動機付けができていない。
	▲	乗用車販売店 (管理担当)	単価の動き	・物価や燃料費上昇で、やや悪い。
	▲	スナック(経営者)	来客数の動き	・宴会もフリーの客も減り、ランチタイムの客まで減っている。物価が急激に上がっているからではないか。このような状況では、仕入価格が高騰して厳しくても、値上げはできず、厳しい。
	▲	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・ここ数か月、季節特性等を考慮しないと、明らかに来客数が減少傾向にある。販売単価を継続的に値上げしているわけでもないのに、毎月来客数が減少傾向にあり、1組当たりの利用金額も減少傾向である。
	▲	都市型ホテル (スタッフ)	お客様の様子	・10月からあらゆる面で物価が上がり、個人客の動きが鈍くなっている。正月を控えているからなのかという状況である。実際、レストランの来客数も5%ほど落ちており、追加注文となるアルコールの販売も、3か月前と比べ動きが悪くなっている。また、法人利用も衆議院議員選挙があったためか、動きが悪く、10月の宴会の件数は前月より10%落ちている。
	▲	旅行代理店(副支店長)	お客様の様子	・企業出張の減少や旅行参加者数の減少がみられる。特に、製造業からの受注、参加者数の減少が目立っている。
	▲	タクシー運転手	販売量の動き	・7月、8月は前年比100%をほんの少しだが超えていたが、9月は前年比99.5%で、今月は90.5%となっている。最近としては非常に悪い状態である。
	▲	その他レジャー施設〔ボウリング場〕 (経営者)	来客数の動き	・天候が良くなり、運動会等のシーズンで、家族連れの利用が減っている。団体利用も減っており、厳しい状況となっている。
	×	商店街(代表者)	競争相手の様子	・中心街でありながら、閉店してしまう店が目立ち、街のにぎわいが、どんどんなくなってしまう。
企業動向関連	◎	*	*	*
	○	食料品製造業 (営業統括)	受注量や販売量の動き	・新酒が寄与しており、業務筋からの引き合いが多く、前年実績をクリアしている。

(甲信越)	○	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・特に観光業ではインバウンド需要の恩恵を受けている。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・例年ある季節商材の受注のみである。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社は比較的仕事量が確保できているが、近隣企業では仕事量の減少が目立っている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注状況は順調であるが、人手不足も続いている。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・足元の業種別の業況感をみると、非製造業は観光需要の増加でサービス業のほか、価格転嫁が進んだ卸、小売で堅調さが持続している。一方、製造業で一進一退の状況が続いており、方向感が見えにくい状況にある。
	□	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新聞購読も物価高による家計節約から取りやめが続いている。広告出稿は前年比微減で推移している。旅行収入は需要が増えてきているものの、新型コロナウイルス感染症発生前には戻らず、海外旅行は円安による影響で回復していない。
	▲	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・いつもなら既に納品が始まるクリスマス商戦も、今年は低調で注文がほとんどない。また、金価格の上昇で企画品の受注が来ても収益は悪化している。今年前半は何とか前年比を多少なりとも上回った展示会や催事も、年後半は低調で、ここ1～2か月は前年を10%近く下回っている。
	×	*	*	*
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(甲信越)	□	人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・ファミリーレストランで外食した際、単価が上がったせいか客が明らかに減っており、高齢の年金生活者が多いことに驚いた。いかにサラリーマンの財布が厳しい状況かがうかがえる。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・観光やインバウンド、イベント等の増加で、レンタカー業や警備業、美容業といった業種は求人数が増加傾向にある。一方、飲食店等は原材料価格の高騰を価格転嫁できない実情から、求人を手控える状況がある。食料品製造の求人数は増加しているが、中国の景気減速等の影響から派遣求人が減少しており、勘案すると上向きとも下向きともいえない。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—